



2023年10月31日

各位

会社名 鈴 茂 器 工 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 鈴木 美奈子
(コード番号：6405 東証スタンダード市場)
問合せ先 執行役員 企画本部長 秋田 一徳
(TEL. 03-3993-1396)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年5月12日付「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました2024年3月期第2四半期累計期間(2023年4月1日～2023年9月30日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 2024年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2023年4月1日～2023年9月30日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	6,960	330	335	220	17.02
今回修正予想 (B)	6,735	450	480	295	22.82
増減額 (B-A)	△225	120	145	75	—
増減率 (%)	△3.2	36.4	43.3	34.1	—
(参考) 前期第2四半期実績 (2023年3月期第2四半期)	6,351	436	468	379	26.39

(注) 当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。

1株当たり四半期純利益については、2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 修正の理由

2024年3月期第2四半期累計期間の業績につきましては、当社の主要顧客である外食・小売業における機械化や省人化の動きは引き続き継続しており、製品需要は堅調に推移しております。

このような環境の下、国内は、原材料価格やエネルギー価格の高騰、人手不足の進行等により、外食・小売業にとっては厳しい事業環境は続いておりますが、2023年5月に新型コロナウイルスの5類移行、

インバウンド需要の回復、および人手不足を背景とした省人化の動きは継続しており、製品需要は堅調に推移しております。業態別では、大手回転寿司チェーンからの寿司ロボットの入替需要が堅調に推移したほか、レストラン・食堂業態およびホテル・旅館・給食業態からのご飯盛付けロボット (Fuwarica) の製品需要が拡大し、国内売上高は想定を上回りました。

海外は、外食・小売業における人手不足の深刻化や人件費の高騰により、機械化や省人化の動きは引き続き継続しているものの、インフレや金融引き締め、ウクライナ情勢を巡る地政学的リスクなどを背景に事業者の設備投資意欲は減退しております。地域別では、特に欧州での影響が大きく、海外売上高は想定を下回りました。

このような動向を踏まえ、当第2四半期連結累計期間の売上高は前回予想を下回る見通しとなりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高予想数値の国内・海外別内訳

	前回発表予想		今回発表予想		増減額	増減率
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	(%)
国内	4,417	63.5	4,721	70.1	304	6.9
海外	2,543	36.5	2,013	29.9	△529	△20.8
合計	6,960	100.0	6,735	100.0	△225	△3.2

一方、利益面につきましては、売上高が前回予想を下回る見通しとなったものの、海外の売上高減少や燃料費高騰の落ち着きにより荷造運送費が想定を下回ったことに加え、コストコントロールの強化により、コンサル費用や旅費交通費等を中心に販売費及び一般管理費が減少し、その結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前回予想を上回る見込みとなりました。

なお、2024年3月期通期の業績につきましては、欧州を中心に海外の事業環境が依然として不透明な状況が続いていることから、前回予想を据え置いております。

以上

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。